

都市の地震災害を共助と技術力で乗り越えるには

災害対策には、自助・共助・公助のバランスのよい取り組みが重要と言われます。東日本大震災以降、住民どうしが災害時に助け合う共助の仕組みづくりが全国各地で進められています。一方、東京のような大都市では、住民どうしのつながりが薄いことが指摘されており、共助の仕組みづくりに工夫が必要です。また、勤務先で被災して帰宅困難者となるケースも多く、勤務先が共助の中心になることもありえます。

本シンポジウムでは、災害時の共助の仕組みづくりとそれを支える技術・情報をテーマに、住民活動や教育・啓蒙などのソフト的な取り組みや、最先端の防災ツールと情報デバイスを活用したハード的な取り組みについて講演者から話題提供を頂き、近い将来に発生する首都圏の地震災害をどのように共助と技術力で乗り越えるかを議論します。

主催 一般社団法人日本建築学会 災害委員会

日時 2016年2月5日（金）13:00～16:30

会場 震災対策技術展・パシフィコ横浜・アネックスホール H会場（204会議室）
（横浜市西区みなとみらい1-1-1） <http://www.pacifico.co.jp/visitor/accessmap.html>

プログラム（敬称略）

- (1) 挨拶（10）
壁谷澤寿海（東京大学地震研究所、災害委員会委員長）
- (2) 基調講演（40）
墨田3丁目で暮らして4年、どう危険と付き合うか 辻本 誠（東京理科大学）
－休憩 10分－
- (3) 話題提供（各25）
 - ①都市における住民共助の課題を克服する 平田京子（日本女子大学）
 - ②コミュニケーションにスイッチを入れる技術 黒田真吾（白山工業㈱）
 - ③帰宅困難者対策と大都市避難問題 廣井 悠（名古屋大学）
 - ④モバイル空間統計による災害把握と被害想定 鈴木俊博（㈱ドコモ・インサイトマーケティング）－休憩 10分－
- (4) 全体ディスカッション、質疑（35）
コーディネーター：村上正浩（工学院大学）
パネリスト：基調講演者＋話題提供者
- (5) まとめ（5）
斉藤大樹（豊橋技術科学大学、災害委員会市民講座WG主査）

司会：永野正行（東京理科大学）

記録：斉藤大樹（前掲）

参加費 無料（資料代1,000円）

定員 180名（申込み先着順）

申込先（Web申込み） <http://www.shinsaexpo.com/yokohama/semi-info2/>（「セミナー申し込み」より）

震災対策技術展 HP <http://www.shinsaexpo.com/yokohama/>

問合せ 日本建築学会事務局 小野寺篤 onodera@aij.or.jp TEL03-3456-2051